

結語

1. 進行非小細胞肺癌に対するイレッサの有用性について retrospectively に検討した。
2. PR 28例, SD 44例, PD 21例で, 全体の奏効率は27.5%であった。
3. 間質性肺炎以外の毒性はほぼ忍容可能であった。
4. 間質性肺炎の発現は11.8%と予想以上で5例にTRDを認めた。
5. 間質性肺炎の危険因子, 発現機序などが明らかになるまでは実地医療でのイレッサの使用は開発治験と同様の選択基準で慎重に行うべきと思われた。

NTOC